

平成26年度 第4回 家庭教育講座「子どもだてマナビイ」

「子ども力」を育てるための「おとな力」～本を通して～

- 日 時 平成26年10月18日(土)10時00分～12時00分
- 場 所 小郡地域交流センター
- 講 師 児童書専門店「こどもの広場」代表 横山 眞佐子 氏
- 受講生 大人28名 託児20名



児童書の専門家である横山眞佐子氏からご自身の子育てや元幼稚園長としての豊富なご経験をもとに、絵本を通して「子どもの育ち」についてお話をいただきました。子どもは、成長の過程で様々な体験をすることにより、強く大きく成長していきます。おとなは、子どもの発達に合わせて子どもと一緒に体験をし、すぐ近くで子どもを見守ることにより、「子どもの育ち」を助けます。いつどんなときでも子どもを受けとめるためには、おとながまず「おとな力」を鍛える必要があると教えていただき、横山先生の温かで豊かなお話の内容に引き込まれた参加者の皆さんは、子育てについて深く考えることができました。



○ 人間の想像力



講座の冒頭、横山先生はカエルのパペットを使って、参加者の皆さんと話し始めました。今朝のご自宅でのお母様とのやりとりを紹介された後、コミュニケーションをとるときに有効なツールとしてのパペットのお話をされました。パペットを介することで、たとえば大人と子どもや、大人どうしでもその距離を一気に縮めることができます。

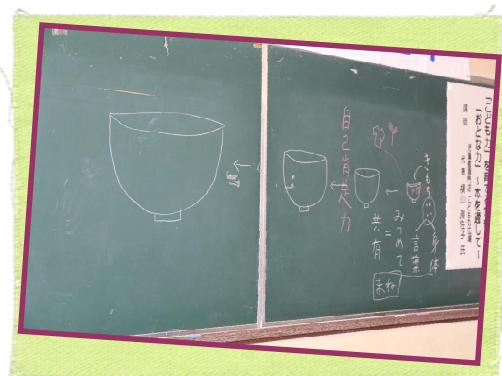
ヒトは、誰しも想像力をもって生まれてきます。まだ幼い子どもでも、パペットや絵本の中の平面的な車の絵などから具体的な実在するモノを想像し、自分の想像の世界で遊ぶことができます。

子どもたちの「想像力」＝「子ども力」を大切に育みましょう。

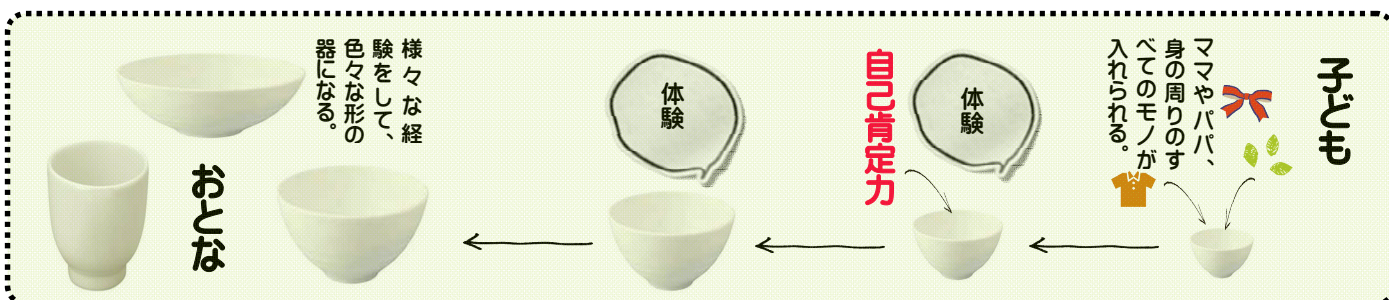
○ 子どもの育ち

「子ども」から「おとな」への成長は、「小さな器」から「大きな器」になるようなイメージです。「子ども」は最初はみな一様に「ちっちゃな器」を持っていて、いろいろな体験をすることで親や身の周りからたくさんの要素を吸収し、「おっきな器」を持つ「おとな」になっていきます。器に入れられるモノは、言葉や仕草や身の周りのモノたちすべてです。

乳幼児の頃は、親を見て真似をし、親と見つめ合い、同じモノを見て共感します。しっかりと子どもを見つめ、子どもと共感して、子どもにとって大切な「自己肯定力」を獲得させましょう。



おとなはいつも子どもに見られ、真似されていることを知しましょう。



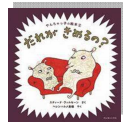
○ 絵本から学ぶ「おとな力」とは？

スウェーデンの絵本「やんちゃっこ」シリーズ（全6巻）を紹介しながら、子どもの育ちについてのお話をされました。子どもと親、子どもと周囲のおとな、子ども同士の世界など、絵本の中の場面を実際に演じてみることで、参加者の皆さんは具体的な場面を想像して、絵本から伝わるメッセージを読みとりました。



『だれのズボン?』

主人公の「ぶたくまさん」が、自分にぴったり合うズボンをみつけます。自分のモノと人のモノとの違い、自と他の違いに気づかせます。



『だれがきめるの?』

お母さんと子どもの日常にありがちな場面での子どもが悪いことをしたときのしつけ方、親の役割、子どもの気持ちの切り替え方が学べます。

『やんちゃっ子の絵本』 出版社:クレヨンハウス
作:スティーナ・ヴィルセン 訳:ヘレンハルメ美穂



『もりのなか』
作:マリー・ホール・エッツ
訳:まさき るりこ
出版社:福音館書店



『ちびゴリラのちびちび』
作:ルース・ボーンスタイン
訳:岩田 みみ
出版社:ほるぷ出版



『ガンピーさんのふなあそび』
作:ジョン・パーニンガム
訳:光吉 夏弥
出版社:ほるぷ出版

その他、『もりのなか』や『ちびゴリラのちびちび』、『ガンピーさんのふなあそび』の絵本が紹介されました。絵本の中には、子育てのヒントがたくさんあること、これらの絵本に登場するおとなたちは、みな「おとな力」のあるカッコいいおとなたちであることを教えていただきました。

 絵本に登場する彼らのような「カッコいいおとな」になりましょう。



○ ロングセラーとベストセラー

本は、おとなの世界ではいつも「ベストセラー」が注目されますが、子どもの世界で注目されているものはずっと「ロングセラー」です。絵本には、100年前からずっと読まれ続けているものがあります。おとなの世界では、社会の変化によって読まれる本もどんどん変わっていき、昔の本が原文のまま読み続けられることは多くはありません。しかし、今の子どもも50年前の子ども、おもしろいと思う絵本はいつも同じです。ヒトが「生きる」うえで、根っこの部分は今も昔も変わることはないのです。

○ 親として大切なこと

赤ちゃんのときには、「肌を離さないで。」
ある時期がきたら、「肌を離しましょう。でも、手を離さないで。」
次には、「手も離しましょう。でも、目は離さないで。」
最後は、「目も離しましょう。ただし、心は離さないように。」
～ある教育者の言葉より～



親は、いつでも子どものよりどころです。「本当に困ったとき、一人ぼっちになったとき、わたしはいつでもあなたの味方よ。いつでも戻っていらっしゃい。」と子どもに真剣に伝えていきましょう。「ただし、たいして困っていないときには、わたしを呼ばないで。」と。(笑)

「おとな力」とは、いついかなるとき、どんなことがあっても子どもを受けとめることができる力です。

 「おとな力」を磨きましょう!



受講生の方からいただいた貴重なご意見の一部を紹介します



- ☆ 楽しい心あられるお話をいつもありがとうございます。絵本の思い・深さと、改めて子育て・親育ての良いお手本であることを感じました。ありがとうございます。
- ☆ パペットの登場からひきこまれ、終始楽しく興味深く、反省しながらお話をきいていました。「やんちゃっこ」の絵本は、親目線でとても勉強になる本です。「自己肯定力」「生きる力」「他者共感」気になるワードがしっかりと本とともに語られ、とてもためになる講座でした。また別の本ももっと紹介していただければ嬉しいです。
- ☆ 「自己肯定力」が大事というのはよく聞きますが、私自身「自己肯定力」がなく、生きることが素敵とは思えず、子育てに悩んでしまいます。絵本は、今まで漠然と読みきかせていましたが、私も大人として成長できる絵本から学ぶことは多いのだなと驚きでした。私も少しでも自己肯定力をつけられるよう子どもと一緒に絵本を通して成長していきたいと思えます。ありがとうございました。
- ☆ 子どもを育てながら、親として成長できたらなあと思えました。いろいろ経験させて心も育っていく…深いなあと思えました。もっとたくさんの親に聞いてもらい、よりよい子育て環境をつくっていただけたいと思えました。
- ☆ 絵本の中にたくさんのメッセージが込められていることを初めて知りました。絵本を買って帰って読んであげたいと思えました。
- ☆ 絵本「やんちゃっこ」のシリーズを通して、自分の身に置き換え、どう対処していけばいいのか良いお手本を教えてもらえ、楽しく学べました。子どもの経験場所を奪わないように心がけたいと思えました。
- ☆ いろいろな本も紹介していただいて、本当にためになりました。お話もとても楽しく自分の子どものことを思い浮かべながら聞くことができました。また機会があれば他の本も紹介してほしいです。ありがとうございました。
- ☆ 感動のあらしで涙が出ました！先生の「どんなことがあっても私が守ってあげる…」という力強いことば、自分が母に言われているようで胸にじんときて、我が子にも伝えていきたいと思えます！素晴らしいお話、ありがとうございました。
- ☆ 絵本の紹介と子育ての悩み解決のヒントが聴けてよかったです。息子(2歳)はよく人をかむので、少々私も心が弱っていたところでした。話をきいて少し余裕をもって対処ができそうです。
- ☆ チラシで横山さんの名前だけを見て申し込みました。若いお母さん方ばかりでちょっと場違いでしたでしょうか？ ですが、子育てをほぼ終えて“そうなんだ”と感心させられることもあり、今後は孫育てに生かしていただけたいと思います。来春ママになる娘にも伝えられたらよいなと思います。今回のようなお話をたくさんの若い人々に聞いてもらい、虐待されるような子どもがいないようにしてほしいです。
- ☆ 今日とても勉強になる講座をありがとうございました。心が軽くなりました。これからはまた違う目線、感情で子どもと本を楽しんでいけるんじゃないかと思うと、とても嬉しいです。
- ☆ とてもすてきなお話でした。改めて絵本を子どもと一緒に読んでいきたいと思えました。「おとな力」をつけるには、まだまだ私自身が経験をつんでいかないといけないなと思えました。

御協力ありがとうございました

